

第2章 主な調査結果

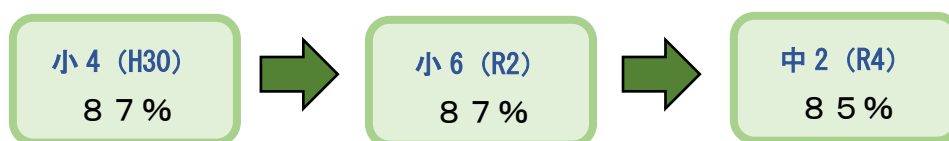
1 主な設問と調査結果の概要

※数値は原則小数点以下を四捨五入して、整数値で掲載しています。

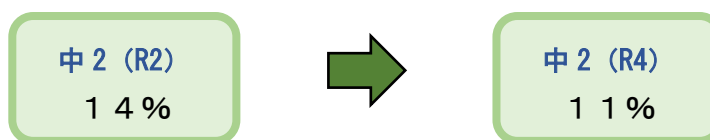
1 世帯状況について

P 25～

- (1) 父母が同居している世帯は約85%と学年が上がるごとに減少し、母子・父子世帯が増加しています。【P 25】



- (2) 世帯年収が300万円未満の世帯は約11%でした。小学6年生時と比較すると微増していますが、令和2年度の中学2年生よりは3ポイント減少しています。【P 28】

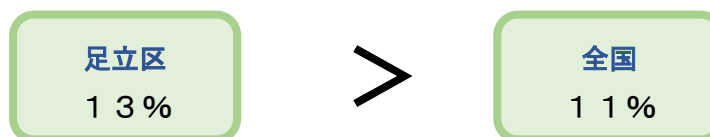


2 子どもの健康について

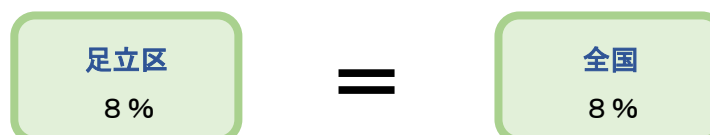
P 30～

- (1) 肥満傾向の子どもの割合は男子は全国平均よりやや高めですが、女子は同程度となっています。【P 32、33】

【男子】



【女子】

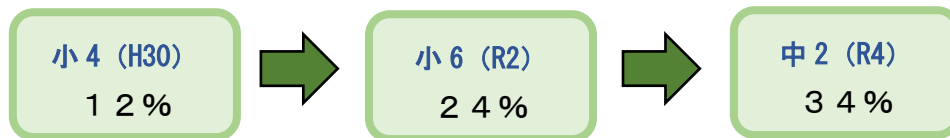


- (2) 歯科健診の結果では、むし歯が1本もない子どもの割合は約66%で、小学6年生時からむし歯のない割合は高いまま維持しています。【P 34】

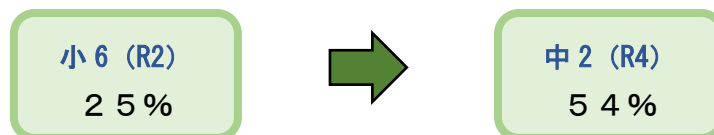
3 子どもの生活について

P 36～

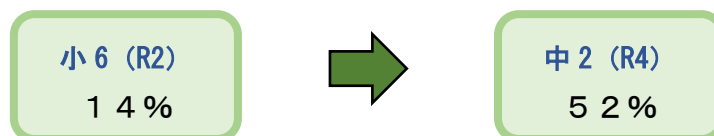
- (1) 学校での体育を除いて、1週間でほとんど・全く運動しない子どもは約34%で、学年が上がるほど増加していますが、令和2年度の中学2年生と比較すると同程度です。【P 40】



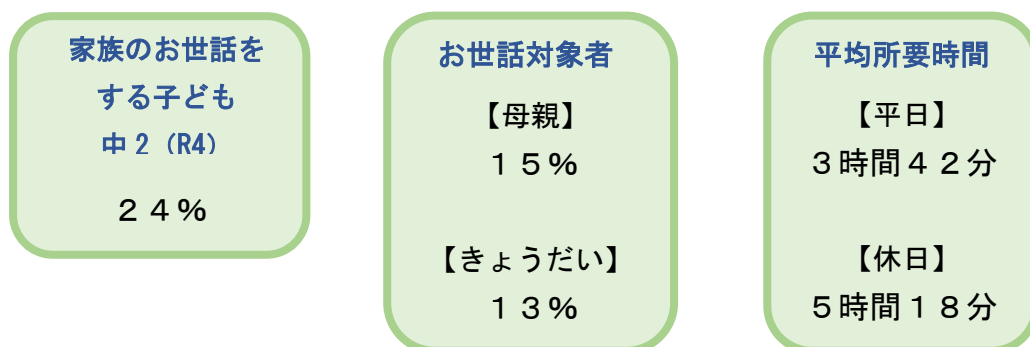
- (2) 携帯電話、スマホ、タブレットを1日あたり3時間以上利用している子どもは、約54%で、学年が上がるにつれ増加しており、令和2年度の中学2年生と比較しても約11ポイント増加しています。【P 41】



- (3) 夜10時以降に携帯電話、スマホ、タブレットを利用している子どもは約52%で、小学6年生時の約14%と比較すると、38ポイント増加していますが、令和2年度の中学2年生との比較では同程度となっています。【P 41】



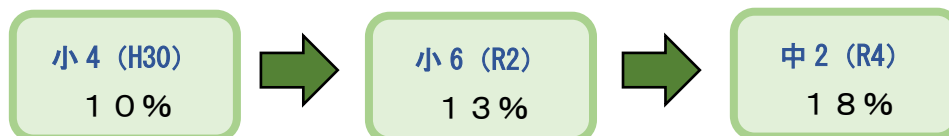
- (4) 家族の中にお世話している人がいる子どもは約24%で、お世話をしている対象は、母親が一番多く、次いできょうだいとなっています。お世話の内容は、家事が約15%、話し相手が約13%で、平均所要時間は、平日は約3時間42分（3.7時間）、休日では約5時間18分（5.3時間）となっています。【P 45、46】



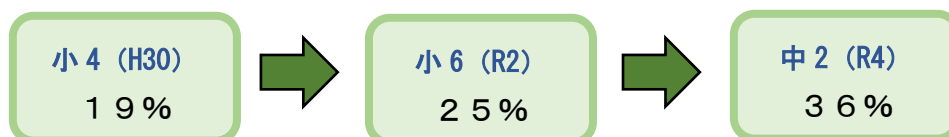
4 子どもの食生活について

P 47～

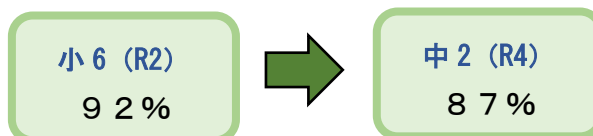
- (1) 朝食を毎日食べる習慣がない子どもは約18%で、学年が上がるにつれ増加しています。朝食を食べない大きな理由は食欲がないことや食べる時間がないことでした。
【P 47】



- (2) 野菜から食べている子どもは約36%で、学年が上がるにつれ増加しており、令和2年度の中学2年生と比較して3ポイント増加しています。
【P 49】



- (3) 夕食を親や祖父母と食べる子どもは約87%で学年が上がるにつれ減少しています。令和2年度の中学2年生と比べると同程度です。
【P 50】



5 子どものころについて

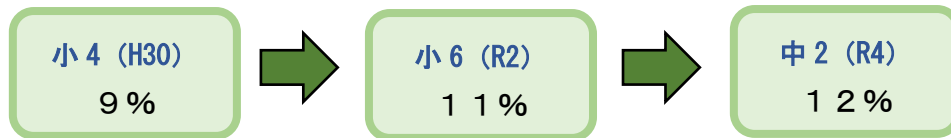
P 55～

- (1) 逆境を乗り越える力の平均点は、100点満点で、約67点です。令和2年度の中学2年生と比較して同程度となっています。
【55P】
- (2) 自己評価・自己肯定感の平均点は、30点満点で、約15点です。学年が上がるにつれて減少していますが、令和2年度の中学2年生と比較して同程度です。
【56P】
- (3) 子どもの幸福度の平均点は、10点満点で、約7点です。学年が上がるにつれて減少していますが、令和2年度の中学2年生と比較して同程度です。
【56P】

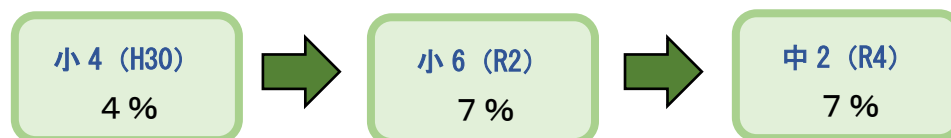
6 保護者の生活について

P 58～

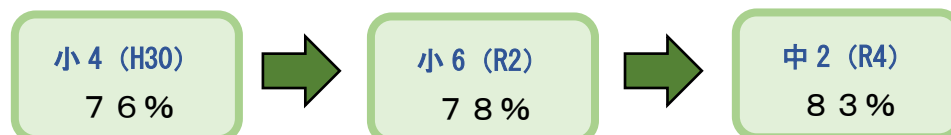
- (1) 生活必需品が不足している世帯は約12%で、学年があがるにつれ増加していますが、令和2年度の中学2年生と比較すると約2ポイント減少しています。【64P】



- (2) 経済的な理由で、電気・水道・ガスのライフライン等の支払い困難だった経験がある世帯は約7%で、学年が上がるにつれ増加していますが、令和2年度の中学2年生と比較すると同程度となっています。【65P】



- (3) 就業している母親は約83%で、学年が上がるにつれ増加しています。就業している父親は約84%で、小学6年生時と比べると約3ポイント減少しています。【66P】

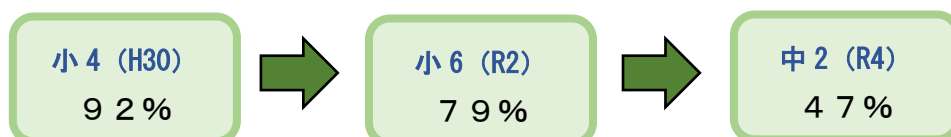


- (4) テレワークをしている割合は母親が約11%、父親が約22%でした。【68P】

7 保護者の子どもへの関わりについて

P 69～

- (1) 子どもの勉強を月に1回以上見る保護者は約47%です。学年が上がるにつれ減少しています。【69P】



- (2) 子どもと学校生活の話を月1回以上する保護者は約97%で、学年が上がっても高いまま維持しています。【70P】

- (3) 子どもの目の前でたばこを吸うことがある世帯は約22%で、小学4年生時、小学6年生時と比較して同程度となっています。【75P】

8 子どもと保護者の地域とのつながりについて

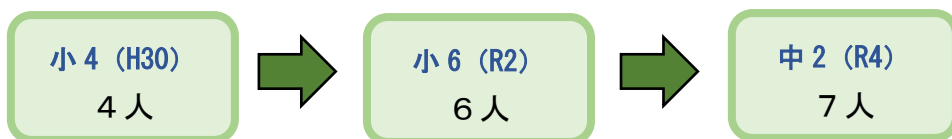
P 76～

- (1) クラスの内外での仲の良い友だちの数と、悩み事を相談できる友だちの数は、ともに学年が上がるにつれ増加しています。【77P】

【クラス内外での仲が良い友だち】



【悩み事を相談できる友だち】



- (2) 地域の人々を信頼している保護者は約48%で、学年が上がるにつれ減少しています。【79P】

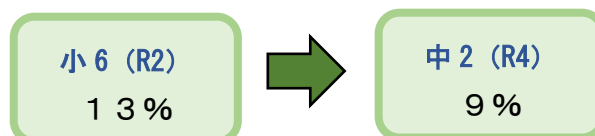
- (3) 保護者に相談相手がない割合は約5%で、小学6年生時や令和2年度の中学2年生と比較して同程度となっています。【80P】

9 子どもの健康・生活と「生活困難」との関連について

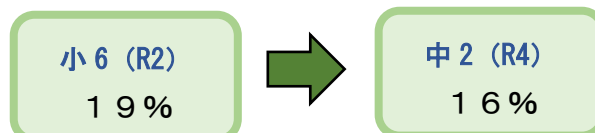
P 82～

- (1) 肥満傾向にある子どもの割合は小学6年生時と比較すると、非生活困難世帯では約4ポイント、生活困難世帯では約3ポイント改善しました。【82P】

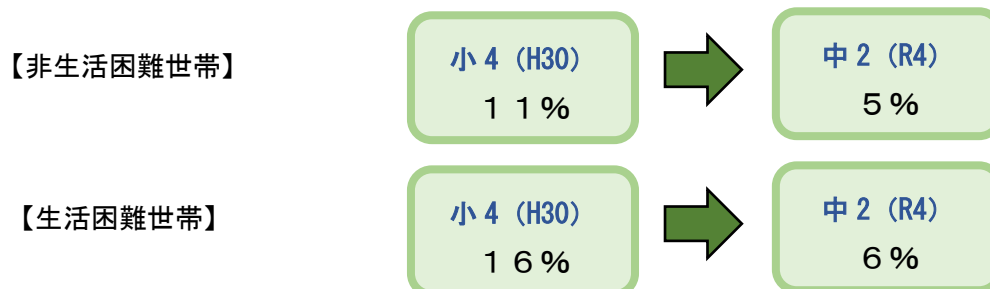
【非生活困難世帯】



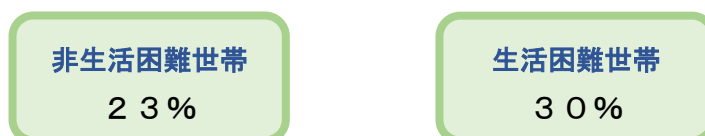
【生活困難世帯】



- (2) むし歯が5本以上ある子どもの割合は、小学4年生時では非生活困難世帯と生活困難の差は約5ポイントでしたが、中学2年生時でほぼ差はありません。【82P】



- (3) 家族の中にお世話をしている人がいる子どもは、非生活困難世帯で約23%、生活困難世帯で約30%でした。【86P】

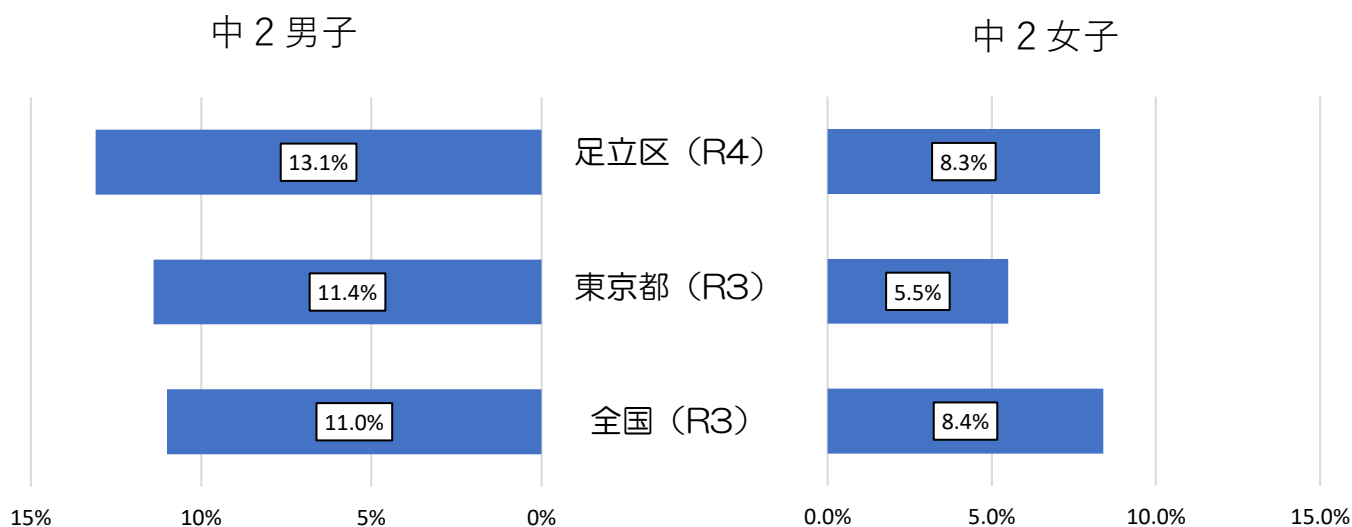


2 これまでの調査結果との比較

足立区立中学校に在籍する2年生の健康・生活実態は以下のとおりです。今年度は、平成27年度の調査スタート時に小学1年生で、継続定期的に調査を行ってきた子どもたちが中学2年生になった回です。平成28年度・30年度・令和2年度の結果と比較、または、過年度の中2の結果と比較を行っています。過去の調査結果も含め本調査の全回答については区のホームページに掲載しております。ここでは、代表的な項目について記載しました。

(1) 肥満傾向について

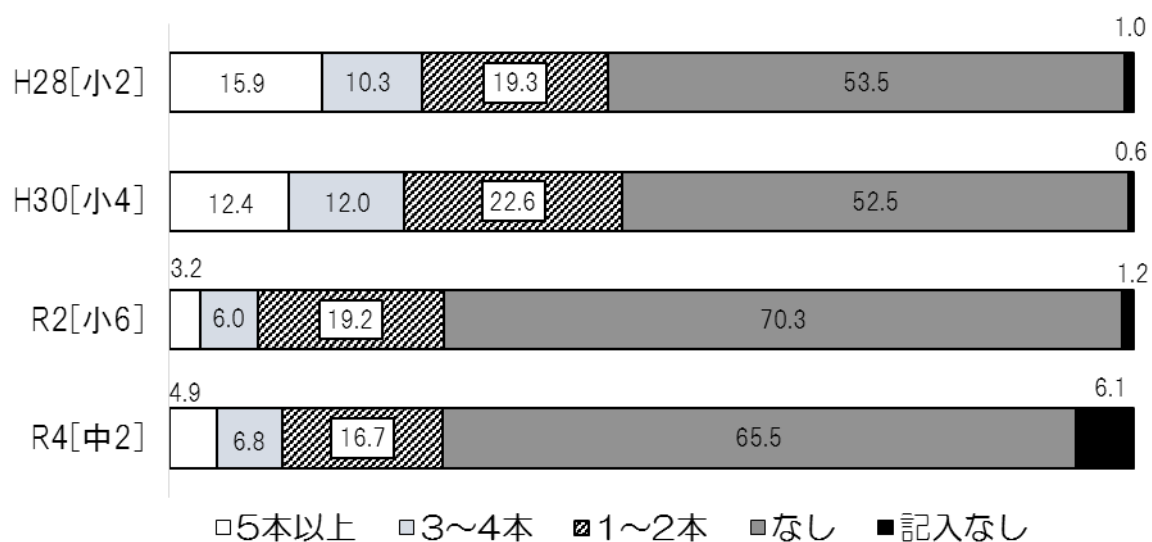
令和4年度の肥満傾向の子どもの割合は、男子は13.1%で、令和3年度の全国と東京都のデータ（文部科学省による最新の統計データ）と比較して、やや高めの傾向です。女子は8.3%で、東京都より高いものの全国と比較すると同程度です。



(2) 歯の状況について

ア むし歯の本数について

むし歯が1本もない子どもの割合は65.5%で、小6から中2にかけて、むし歯のない割合は高いまま維持しています。



イ 1日2回以上歯を磨く子どもの割合

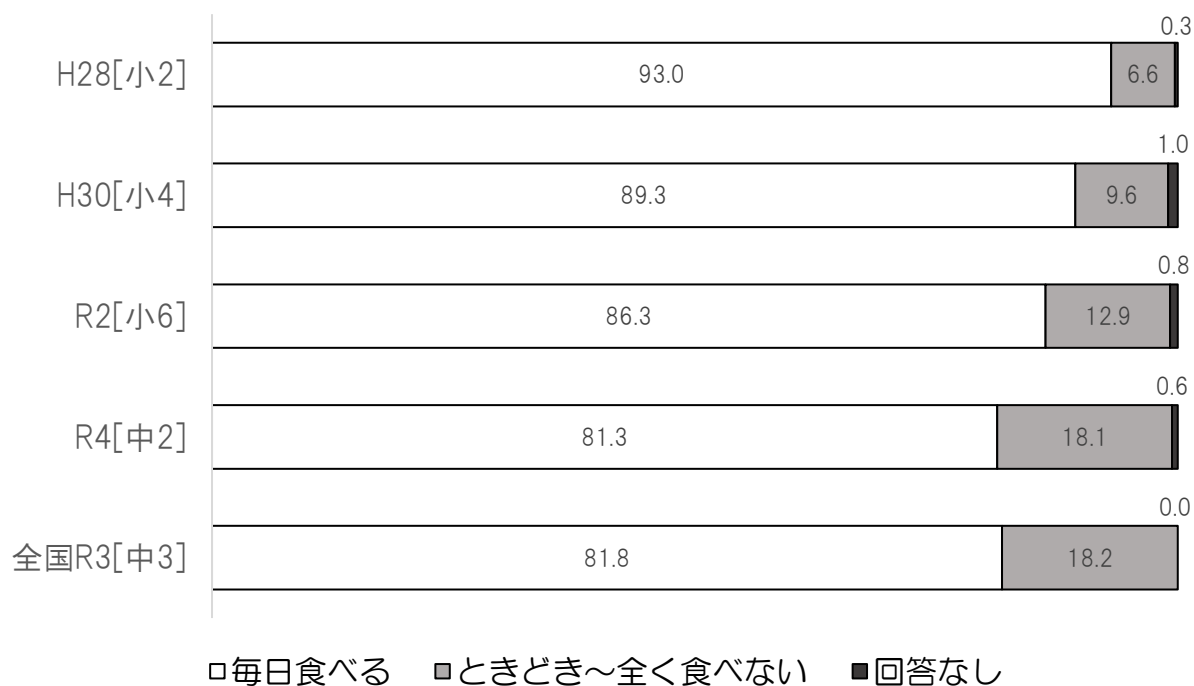
学年が上がるにつれて、割合が高くなり、約8割の子どもが1日2回以上歯を磨いています。



(3) 食事について

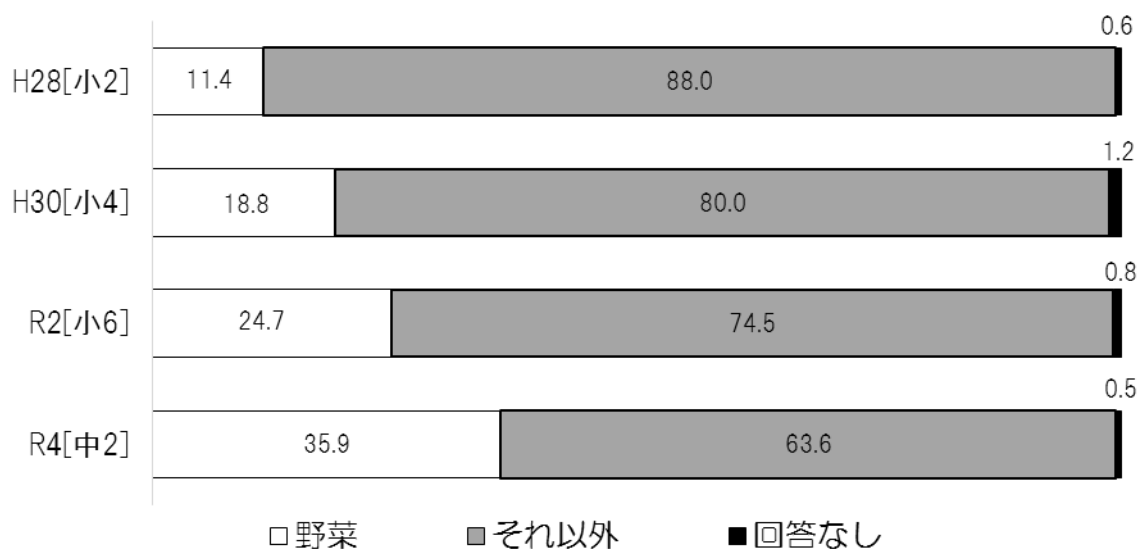
ア 朝食習慣について

朝食を毎日食べている子どもの割合は81.3%と年齢が上がるにつれて減っています。全国（文部科学省による最新の統計データ・中3）と比較すると、同程度です。



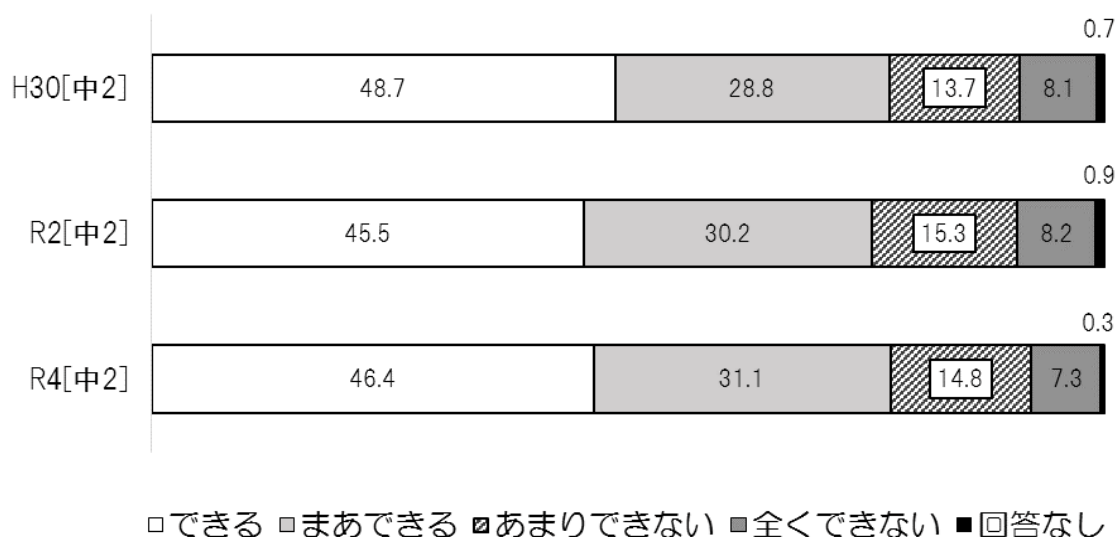
イ 食べる順番について

食事を野菜から食べている（ベジ・ファースト）子どもの割合は35.9%で、年齢が上がるにつれて増えています。



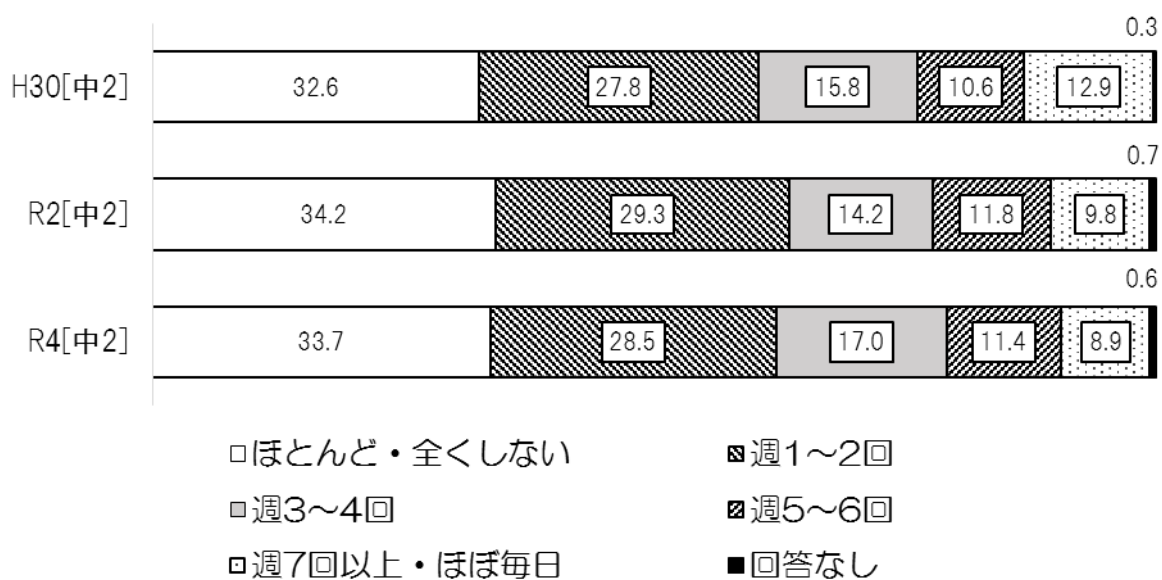
(4) ひとりで簡単な朝食がつけれる割合について

ひとりで簡単な朝食がつけれる子どもの割合は77.5%で、令和2年度（中2）より1.8ポイント増えています。



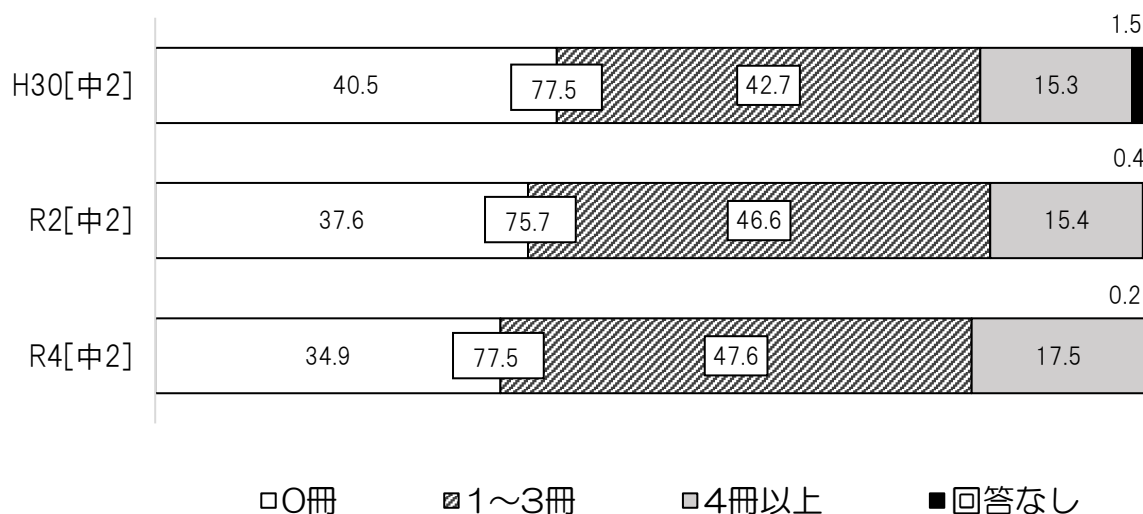
(5) 運動（学校での体育を除く）について

1週間でほとんど・全く運動しない子どもの割合は33.7%で、コロナ禍においても増加しませんでした。



(6) 読書の時間について

最近1か月で4冊以上本を読んでいる子どもの割合は17.5%で、令和2年度（中2）より2.1ポイント増えています。



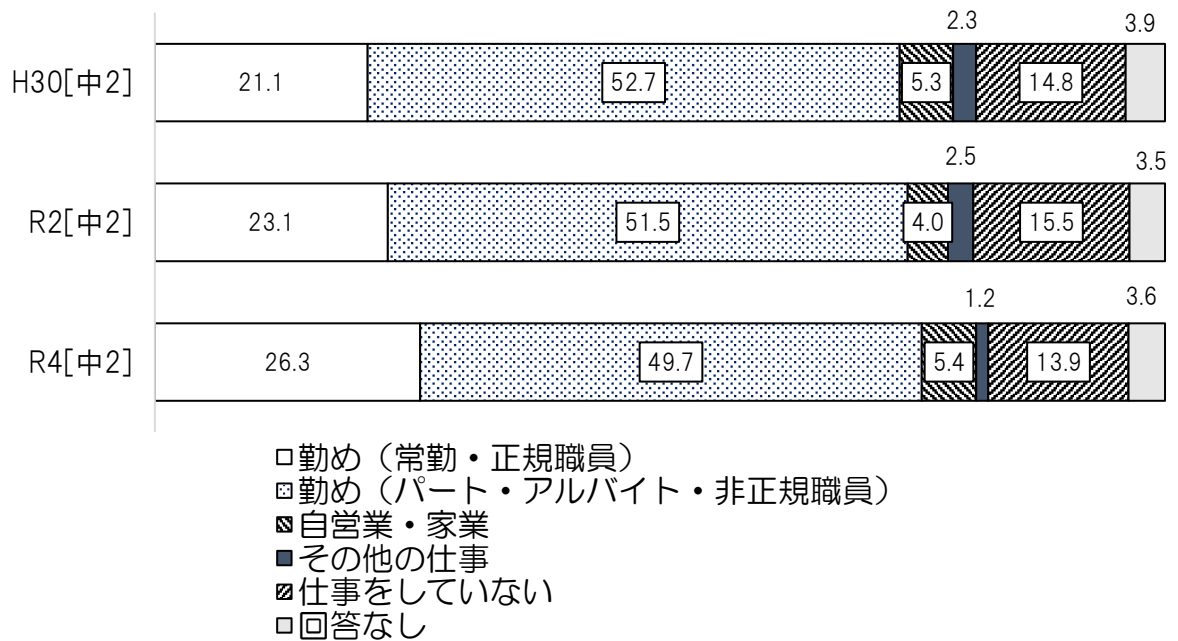
(7) テレビ・動画の視聴時間について

テレビ・動画を1日4時間以上視聴している子どもの割合は18.7%で、令和2年度（中2）より1.6ポイント増えています。



(8) 母親の就業状況について

母親が常勤・正規職員として働いている世帯の割合は26.3%で、令和2年度(中2)より3.2ポイント増えています。



(9) 保護者の相談相手の有無について

保護者に相談相手がいない割合は4.8%で、コロナ禍においても変化はありませんでした。



💡ポイント

これまでの調査結果から、保護者が困ったときに相談できる相手がいる世帯は、子どもの健康面(予防接種の接種率や自己肯定感等)に良い影響を与えることが明らかとなっています。

(10) 非生活困難世帯と生活困難世帯の比較について

生活困難が、子どもの健康・生活にどの程度関連があるかを調べるため、生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。むし歯が1本もない子どもの割合は、非生活困難世帯が70.3%、生活困難世帯が68.1%と、調査当初と比較してその差が大幅に改善されました。また、食事を野菜から食べている（ベジ・ファースト）子どもの割合も、非生活困難世帯が37.0%、生活困難世帯が32.9%と、平成30年度と比べてそれぞれ17.1ポイント増えています。

